

人間とは脳に記録された記憶データである

新年あけましておめでとうございます。新年の幕開けは色々な難問で一杯のようです。不況はますます厳しさを増す様子で、国内に360万人の失業者がいて、デフレは簡単に克服されそうにありません。

北朝鮮、イラクとアメリカ等の緊張は徐々に高まって戦争突入という事態を迎えようとしています。昨年は国内では交通事故の件数が数年ぶりに減少したとか、自動車を所有したり、使用することも困難な人が増えたのがその理由らしいのです。このような環境のなかでどのように生きていったらいいのか？はたして再び景気のよい世の中になるのか？わからないことがたくさんあります。この不況の影響をかぶっている人、幸いにも免れた人いろんな立場の方がいらっしゃるのですが、どんな状況でも幸せを感じられる人、他の人に比べれば恵まれているのに、不平、不満をいってふて腐れてでもいるかのような人、それは性格とってしまえば、それまでかも知れませんが、人の生き方や、想いというものは良く考えるともっと深いものかもしれません。

冒頭のことばは西田文郎というサンリ東海センター能力開発研究所代表のことばです。この方によると「この世には三種類の間人しかいない。『できる』と予感する人間。『できないかもしれない』と予感する人間。『できっこない』と予感する人間である。」ということです。

人間の脳に記憶された事によって左右されることが多いのだそうです。

否定的な記憶が大脳辺縁系に多く蓄積されるとトラウマとなって、その人の幸せや成功を妨げる。反対に拝むという作業はものすごく肯定的な記憶データとして蓄積されるそうです。西田さんの能力開発のノウハウのひとつにあるのが「イエス、バット法」だそうで、これは世の中に蔓延している否定的なことばを、プラスの脳がわくわくしてくる言葉や動作にかえて入力するもので、辛い目にあった時は「これは神様がくれたプレゼントだ」と暗示にかけると強力なプラスの記憶がはいるのだそうです。

念佛を称えるということはこの強力なプラスの記憶を声をとおして身体に入力ししかも、拝むというさらにプラスの記憶となるのですから、法然上人がともかく念佛を称えなさいとおっしゃた訳が、この西田さんの研究からも裏付けられたのではないのでしょうか？

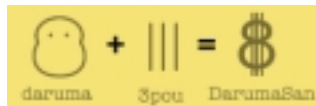
この大変な世の中、念佛を称えて、幸せで、明るく、力強く生きて行きたいものです。 南無阿弥陀佛 合 掌

篤く三宝を敬え 三宝とは仏、法、僧なり
仏.....いのちの親
法.....不可思議な力
僧.....仲間達

浄土宗の合掌の仕方



両手の手のひらをあわせ、お数珠を親指にかけます。指先を真直ぐにのばして揃え、胸の前で45度にして合わせます。



年間法要のお説教を最後まで聴聞された方、念佛講、14日会に参加された方にだるまさん証書をお授けしています。ポイント制になっています。将来お戒名などにも反映されます。

一皿精進

Vegetarian Cooking

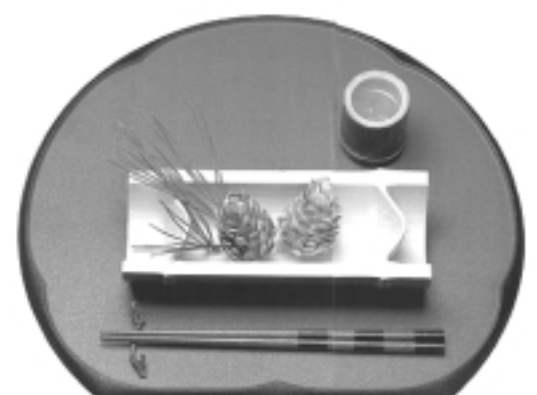
浄土宗『かるな』より抜粋

松ボックリ 作り方

材 料

かぼちゃ 1/2個
かぼちゃの種 1個分
片栗粉 適量
だし汁 適量

1. かぼちゃの種は成熟しきっていない(薄い)ものを選び、水分をよく切ってから、から煎りする。
2. かぼちゃは皮をむかずに、薄めただし汁でひたひたの状態まで味がしみるまで煮る。
3. (2)を皮の緑の部分と実の黄色の部分とに分け、それぞれあたり鉢で滑らかになるまで擦りつぶす。
4. 皮の部分、実の部分それぞれを円錐形になるように形を整え、その周りに(1)を、皮の部分には種を鋭角的に、実に部分には種が開いた状態になるように差し込んでいく。
5. (4)に片栗粉をまぶし、油でカラッと揚げる。



奈良県香芝市 正福寺住職 別府 空由上人

後夜無上偈

諸衆等聽說後夜無常偈
時光遷流轉 忽至五更初 無常念念至
恒與死王居 勤諸行道者 勤修至無餘

諸衆等聽きたまへ、後夜無常の偈を説ん

時光遷りて流轉し、忽五更の初に至る、無常念念に至り、恒に死王と居す、諸の行道者に勤む、勤修して無餘に至れ

皆さんお聴き下さい。うす明るくなる頃の定めない理法(ことわり)を述べます。

寝ている間には過ぎ去り明るさかすかに感じる頃めざめます。おぼれげに意識の移りゆく時、かすかな光は徐徐に変化して、私達は自分をとります。寝るといふ事はそのまま死んでしまつかも知れないという事です。今生きている皆様方に一時も一日も早く自ら自分の心を正しく保ち整えて迷妄のない身となつて下さる事を願います。

明け方の明るくなる時の光の変化のなせる、ありとあらゆるものの移りゆきは一々のものがはつきりと認められてゆくさまは、何とも言えず自分の心の内に心象の「移ろい去り」と「か

げり」を残してゆく、心して観ずべし

晨朝無上偈

諸衆等聽說晨朝無常偈
欲求寂滅樂 當學沙門法 衣食支身命 精進應隨衆得
諸衆等今日晨朝各誦六念
念佛救世大慈父 念法出離解脫門 念僧諸有良福田
念戒無上菩提本 念施具足波羅密 念天護法利群生
回願往生無量壽國

諸衆等聽きたまへ、晨期の無上の偈を説ん

寂滅樂を求めんと欲せば當に沙門の法を學すべし、衣食身命を支ふ、精進應衆に隨て得、諸衆等 今日晨朝各 六念を誦せよ

救世の大慈父たる佛を念じ、出離解脫門の法を念じ、諸の良福田たる僧を念じ、無上菩提の本たる戒を念じ、波羅密を具足する施を念じ、法を護り群生を利用する天を念じて、無量壽國に往生せんと回願す

皆さんお聴き下さい。物事を成すことの定めない理法を述べます。

独りさとり得た者のよろこびを私も得たいと望むならば、道の人の行ないを見習つべきです。それは着るものは一種類で食物はわずかです。人の施しを受けて自身を保ちています。皆さんの日の初まりに佛と法と僧と戒と施と天とを念じて無量壽國に生れたいと心をついに祈るべきです。

日中無常偈

諸衆等聽說日中無常偈
人生不精進 喻若樹無根 採華置日中 能得幾時鮮
人命亦如是 無常須臾間 勤諸行道衆 勤修乃至真

諸衆等聽きたまへ、日中の無常の偈を説ん

人生ける時精進ならば喻は樹の根無きが若し、華を採て日中に置ば、能く幾時か鮮かなることを得ん、人命も亦是の如し、無常須臾の間なり、諸の行道の衆を勤む、勤修して乃ち真に至れ

皆さんお聴き下さい。活動すること定めなき理法を述べます。

私達が生きている時に佛道修行をしないという事は、ちようどそれは樹に根がないようなものです。すぐに倒れます。又華も切つてお日さまに当るとすぐに枯れてしまします。私達の何十年という人生もちようど、この樹や華のようにすぐに終つて、永遠の中のとりのめもないちよつとの間の出来事で、死後どうなるか判りません。今も生きている皆様方、どうか、この世のこの生で佛道の修行をして肉体の死する時、み佛のみもとへと往き生きて下さい。

善導大師は三昧發得の人、極樂淨土の莊嚴を生きながらに觀じて居られた方魂魄は肉体にあり、縁を求めて生を受けこれを生き死にとも、生まれ変わ

りとも感情の趣く処に従つて現われる世界を六道と述べ、その中を車輪の如く繰り返して行く故に輪廻とも申します。淨土には昼夜を分つ事がない故に、三昧發得の為往生の為には寝る事と死する事を省く為に、一日を六時に分ちて佛道修行を勤め給ふ。

さらには、極樂と阿弥陀佛の十萬億佛刹超過の實在、今現在説法、この事を強く示してこの娑婆世界の定めない理法よりの解脫、又、今生の人生が全てとの誤つた見解より永遠に生き通せる死のない安樂の刹に誘っている。その為には現実に厭悪感を抱かせるべく、ややきらわれがちな迄に厳しく説いている。この事を特に誤解のない様にとつけ加えておくのみである。

そもそも觀經そのものが韋提希致請により、この世を濁悪不善の処と認め、淨國への生を希いて釈迦の示せる淨國・極樂の莊嚴と佛願力たる撰取への慈悲である。この世の眞實にまつすぐ目を向け、自分のいつはりなく願うものが何か、これが充分につきつめられれば、善導大師の無常偈中の厳しさ、そこ迄説いて往生を發願させた、善導のやさしい想いやりが良く理解出来るものと確信する次第である。

弥陀教義に曰く、宇宙は単なる理智の世界ではなく大願業力の世界である。われらが理智を以て觀照し我欲を以て分別し執着せるものは差別も眞の差別でなく、平等も實の平等ではな

い。唯悲智双行せる不滅無窮の願力の一切を救う。しかして弥陀を通じて眺むれば、釈迦此佛を説き、諸佛もこの佛を讚証す、すなはち釈迦も諸佛も弥陀に撰入す、すなわち汎一神であつて、一切諸法が眞の神であつて、しかも有縁の弥陀を通ずれば一切弥陀一佛である。しかし、その一の佛力は唯四十八願であつて、願々皆弥陀身をなし、極樂土をなし、一切生を撰す。すなはち渾一的作用であり、全分他受用であり、總体的進動であり、酬報体であると同時に完全なる縁起である。無量寿たり大慈悲であると共に無窮の理智であり光明である。われらの一想念一呼吸一言動の間にも完全なる弥陀が普撰の大益を垂るゝものである。と

弁榮聖者はこれより自性は十方法界を包めども中心に儼臨し給ふ、靈的人格の威神と慈愛とを仰ぐもあり、真空に偏せず妙有に執せず、中道に在て圓かに照す智慧の光と慈愛の熱とありて眞善微妙の靈天地に神を栖し遊ばすは、是れ大乘仏陀釈迦の三昧又、我宗祖入神の處なりとす。

善導大師の無常偈中の厳しさ、そこ迄説いて往生を發願させた、善導のやさしい想いやりが良く理解出来るものと確信する次第である。

